

データ消去 可視化出来ていますか？

IT機器は機密情報(個人・企業・技術情報)の塊です。
 依頼した業者が適切なプロセスで処置を行っているかがこれからの課題です。

- 全国の産業廃棄物処理業認可企業数 20.9万社
- その内売上割合50%以上の事業者数 1.2万社
- パソコン買取・データ消去の事業者数 347社
- 第三者機関にてプロセス認証の取得企業 10社

データの 種類と対処

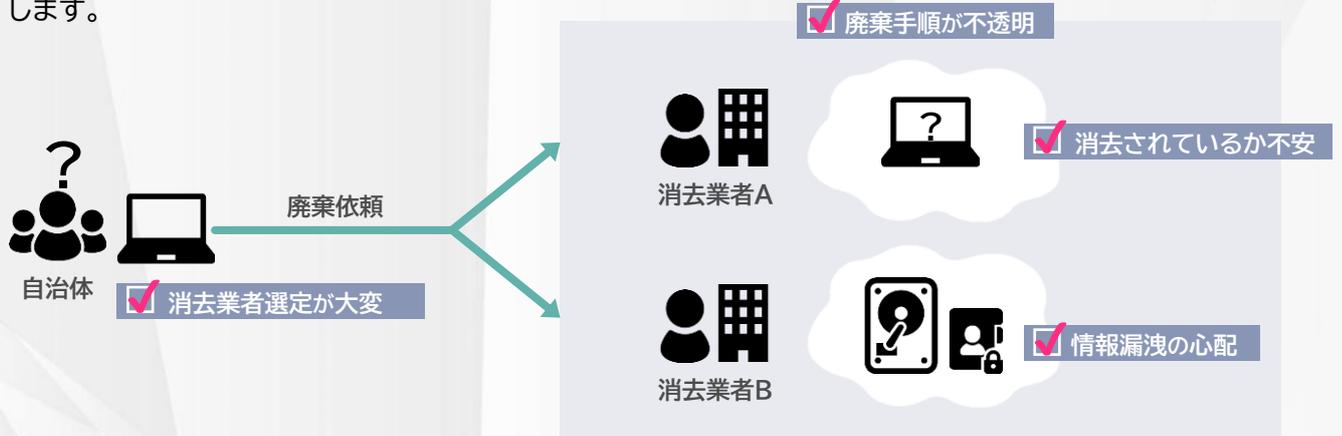


消去レベル	詳細(SATA接続のHDDの場合)
1 デストロイ Destroy <破壊> 媒体の再生 (再組立等) に耐えること	<HDDメーカーなどでも読み出すことが全く出来ない。どのような手段でも復旧することが不可能である> 手法例:物理破壊・粉碎・裁断・溶解等 具体的なイメージ<軍事で取り扱うような機密性のデータが復旧できない消去レベル>EX) 米国防総省レベル 文字通り、完全にデータが抹消され、読み出すことは出来ない。
2 パージ Purge <除去> 研究所レベルの アタック に耐えること	<高度な技術を持つデータ復旧業者やデジタル・フォレンジック業者でも復旧出来ない> 手法例:ANSIコマンドEnhanced Secure Eraseの実行、暗号消去、外部磁界による消磁等 具体的なイメージ<国家の専門研究機関が取り組んでも復旧できない消去レベル> EX)警察庁、検察庁、自衛隊レベル OSが認識する範囲に加えて、上記のすべての領域、再割り当て済みセクタも消去される。
3 クリア Clear <消去> キーボード アタック に耐えること	<HDDメーカーなどでも読み出すことが全く出来ない。どのような手段でも復旧することが不可能である> 手法例:1回以上の上書き消去等 具体的なイメージ<一般の復旧事業者では復旧出来ない消去レベル>EX) 大多数の民間データ復旧業者レベル OSが認識する範囲を消去。リカバリ領域等に用いられるHPA,サービス部品として新しい大容量のHDDの容量をクリップして旧型のPCに対応させるためのDCO領域や不良セクタの代替セクタ処理を行った「再割り当て済みセクタ」のデータは消去の対象とならない。

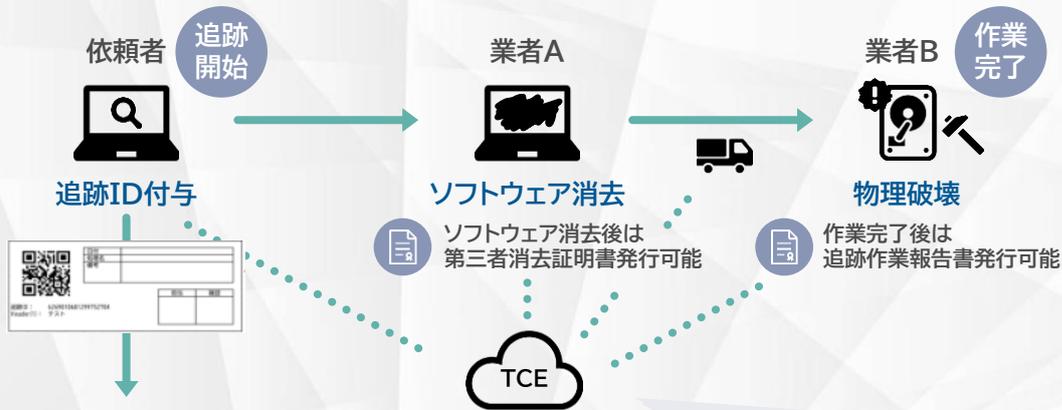
TCEは世界初 データ消去追跡管理システム(ETTMS)で
引き渡しから証明書発行の処理状況をリアルタイムで確認できます。

情報機器を破棄する際の課題

情報機器を破棄する際の対応として、適切な【廃棄措置(データ抹消)】と【廃棄手順の記録・管理】を行うことが推奨されていますが、現状、このガイドラインに則った運用体制にするにはいくつかの課題が発生します。



現在、TCEではPCが手元を離れた時から廃棄処理が完了するまですべての作業工程を管理する事のできるシステムを準備しています。本システムを使用することにより、消去依頼をした機器情報を一括で管理することが可能になります。追跡IDを使ってリアルタイムに機器情報を追跡できるため、今まで以上に安心して消去依頼を委託することができます。



追跡ID:6269010681299752704

機器種別:デスクトップPC 要求仕様:物理破壊

日付	ステータス	機器写真	作業場所	作業ソフト
2020-10-22 09:40	追跡登録		~~庁舎	
2020-10-22 09:45	ソフトウェア消去		~~庁舎	
2020-10-23 18:45	配送中			
2020-10-24 15:00	入庫		〇〇センター	
2020-10-24 15:40	物理破壊		〇〇センター	
2020-10-24 15:43	追跡終了			

お問い合わせ先

株式会社TCE 法人営業部

東京都千代田区外神田3-14-10 秋葉原HFビル2F
TEL:0120-133-115 MAIL:info@tce.co.jp



【ISMS 適用範囲】
本社事務センター
東京商品センター
本社テクニカルセンター
中四国支店



リユースで守れる
わたしたちの未来

